

第1回区自治協議会のあり方検討委員会の主な意見等

大項目	小項目	内 容	委員	検討の方向性
役割	役割の明確化	「協働の要」という言葉は耳触りが良いが、決定権がなく報告を受けるばかり。立ち位置がよく分からない。	川島	<ul style="list-style-type: none"> 役割をさらに詳しく明記する必要があるか 議論がしやすい環境にするにはどうしたら良いか 住民の声を吸い上げるにはどうしたら良いか 負担感と言われるものは何か
		行政は自治協とコミ協がフラットな関係というが、自治協は行政の補助的なもので、自治協とコミ協の関わりは少ない。協働と言っているが、今のコミ協の委員構成では、この役割は果たせないと思う。	坂爪	
		・行政が自治協をあてにしすぎている。委員も生真面目でNOと言えない。便利組織となっており、不満がたまっている。	大串	
		・小学生にもわかる教材を配布するなど、改めて定義づけをしては。	山中	
		・自治協の役割をあまり期待しすぎないほうが良いのでは。「要」のせいで負担が蓄積されてきた。負担を軽くしても良いのでは。		
		・自治協の限界を知り、その範囲で議論しては。情報交換だけでも区の一体感などの効果がある。		
		「地域の声を聞く」というアライバイに使われた。委員の意見に対し、行政からのリターンがないとモチベーションが下がる。		
	・まず役割をはっきりさせたほうが良い。それから委員、運営方法の順で考えていっては。	渡邊		
	・専門的な知識が不十分なのに、判断できないテーマを議論させている。行政は委員に投げかけることで、説明したと思っている。自治協に投げ過ぎ。整理していくという配慮がない。	新藤		
	・自治協の役割を市民が理解していないので、認知不足になる。			
・自治協で意見を聞くなら、議論できるようなお膳立て(協議するためのデータ)がほしい。ただし、情報を出してくれという、報告や資料が多くなる。				
役割分担の必要性	ニーズを吸い上げるのはコミ協で、自治協は区全体のことを考えるもの。	山中	自治会・コミ協との連携はどうあるべきか	
	縦(自治会<コミ協<自治協)と横(自治協同士)の役割分担をどうするか。コミ協が解決できないことを横のつながりで自治協が解決するのでは。	渡邊 大串		
区全体の課題への対応	区全体の課題への対応	・役割の検討が最も重要。	棚村	<ul style="list-style-type: none"> 審議すべき共通の課題、テーマをどう掘り起こすか 課題に特化した会議体は必要か 自治協を活性化するにはどうしたら良いか
		・専門的な人ばかりではないので、審議できないものもあるのではないかと。また、勉強を行ってからの審議となり、時間が無い。		
		・自分の圏域(コミ協)のことばかり出されるので、区としての意見・課題をまとめきれない。		
		・自治協は区全体のことなので、他の地区のことは分からず何を言って良いか分からない。		
		・自治協は旧市町村の意見集約のため作られた。合併建設計画など共通の話題があった時は意味があったが、現在は無いのでは。		
		・自治協で検討してくれと言われても、意見は出ないことが多い。共通の課題がないと地域は動かない。		
調整役としての機能	調整役としての機能	BRTや瓦礫問題など共通のテーマがあれば上手くいく。ただし、該当しない地区もあり、また、共通の話題もなくなってきている。	真嶋	行政と協働して各種団体の調整をどう図るか
		共通の話題がなくなってきている、津波や防災などで他地区とペアリングすることで活性化は図れるのでは。	大串	
		防犯など各団体(自治会・コミ協・自治協、防犯協会など)が同じ活動を行っており、統一されていない。	棚村	
行政からの報告	行政からの報告	各団体の同じ活動を、自治協で調整できないか。	大串	地域への周知方法として自治協の場が適当か
		自治協で各課へ声をかけ、同じ活動を共催で行うことができた。行政の縦割りを調整するのが自治協の役割の一つと教わった。	石垣	
自治協提案予算の実施	自治協提案予算の実施	資料は物事を決めるために必要だが、行政が情報提供すると、報告が長いと委員に思われてしまう。	大串	<ul style="list-style-type: none"> 実施の是非は 委員自身が企画から実施主体まで担う必要があるか 予算要求のあり方はどうか
		各課から多くの報告があるが、自治協でやらなくても良いものが多いと思う。	棚村	
		報告は自治協に言うより、自治会に言う方が話が早い。自治協を通じて、市民に伝えることはしない方が良いと思う。	川島	
		諮問しなくても良いのでは。市の報告もやめれば良いのでは。	坂爪	
		地域により使途に差があるが、良い面もあった。	川島	
		500万円の予算が先にあり、500万円消化のため、マンネリになっている。提案事業は委員が行う必要は無い。	棚村	
		・実施主体となるのは、負担もあり問題である。負担感が大きく、任期を延長しても、4年で辞める人が多い。中央区では、コミ協の会長、副会長以外の方が多く出ている状況。市役所は仕事を減らす方向に持っていくべき。	豊嶋	
		・500万円のお金ありき。使わなくても良いなら、他区に流用したり、積み立てできると良い。		
全区分をまとめる。区ごとの配当はやめる。				
チャレンジ予算であり、夢を語るだけでなく実施できるため良い施策と思う。	坂爪			
区の特徴を活かすには良い。交通問題など複数で連携しなければならぬ場合もあり、横のつながりが重要。	新藤			
自治協の周知	自治協の周知	・自治協が市民に知られていない。知らせるのは行政の責任である。	新藤	有効な市民周知の方法は
		・行政は自治協を作ったは良いが、活かす気がないのでは。枠ではなく、自治協に魂を入れることが重要では。	真嶋	
委員	任期	・2期4年(1号委員は3期6年)では自治協についてよく理解できず、発言できないのではないかと。任期を延ばすにはどうしたら良いか。	豊岡	<ul style="list-style-type: none"> 委員の任期を延長することの是非は 委員が発言できるようにするにはどうしたら良いか
		自治協に「参加しやすい人」が委員になっている。多様な声を拾っていないのでは。任期や開催の時間帯を考えるべき。	石垣	
		自治協委員に任期があるため、1号委員がコミ協会長でなくなってきている。コミ協の意見として発言ができない。	棚村	
	委員の選考	委員の選考	コミ協会長会議では住民の意見をまとめられているが、他の団体が入るとわからない人が出てくる。	棚村
地域の声、学校の声、各種団体の声を聴くという意味では、専門的でなくても良いのでは。	石垣			
委員の能力向上	委員の能力向上	まんべんなく地域住民の意見をまとめられる組織をつくることは難しく、結局は地域団体からの選出になってしまう。	坂爪	
若年層の確保	若年層の確保	ニーズを実現する手法を自治協委員も訓練が必要では。	大串	委員のスキル向上にどう取り組むか
運営方法	自主的な運営	区内に大学がなくても、「大学生募集」という形で集めることは可能では。	大串	自治協の自主的な運営はどこまで必要か
		若い人(高校生・大学生)に入ってもらって、意見を聞くことも必要では。	豊岡	
		自治協正副会長会議で自治協での説明の可否を判断している。	山中	
会議の工夫	会議の工夫	認知度を上げるためにはどうしたら良いか。広報紙だけでは難しい。江南区では自治協の認知度向上を図るため、新潟ハーフマラソンの開催にあわせてジャンパー、帽子、応援旗を作成し、応援旗は沿道で応援する方にも配布した。委員が考えて実行することが必要。	豊岡	<ul style="list-style-type: none"> コミ協が活発化するにはどうしたら良いか 開催日時は妥当か 議論がしやすい環境づくりを行ってはどうか(再掲)
		・コミ協が活発化すると自治協も活性化する。	豊岡	
・開催時間について、工夫が必要。	豊嶋			
・行政から自治協への説明が多く、また、専門的な言葉が多い。説明の仕方や資料づくりを工夫しないと多様な意見は吸い上げられない。				
・広報紙の作成により、少しずつ理解が広まっている。年数も必要。				
・意見を出しやすい場にするため、地域課題を話し合うやり方の工夫が必要。次回に話し合うテーマを決めておくなど。				